

第16章 情報公開・説明責任

1. 財政公開

〔達成目標〕

1 ステークホルダーからの視点でわかりやすい、財務三表と財産目録の内容説明の強化。

〔現状説明〕

財務三表と財産目録は本学ホームページにて公開している。また、「学校法人常磐大学 要覧」「常磐大学報：Topos. (トポス)」にも財務三表を掲載している。「常磐大学報：Topos. (トポス)」には簡単ではあるが総評も掲載している。

また、財務内容の開示要求については、会計経理課での閲覧を認めており、「資金収支計算書」および「消費収支計算書」の小科目レベルでの閲覧要求にも対応を予定している。さらに、補助資料として、財務比率やその歴年の比較表についても備え付けている。

〔点検・評価〕

財務三表と財産目録の公開は実現できているが、ステークホルダーからの視点でわかりやすいという面では、さらに、解説を付記したり、関連資料の追加公開など追加情報をいかに明瞭かつ迅速に提供するかが課題である。

〔改善方策〕

財務三表と財産目録についての補助的資料は、年々整備できている。今後は、これらの資料をまとめ上げ、財務データ集として定型化したものに整備したいと考える。

2. 情報公開請求への対応

〔達成目標〕

2 教職員、学生、保護者、卒業生、一般企業、一般市民等の要請に従って、教育研究活動状況、財務情報、事業報告等の情報を公開・開示し、同時に、情報開示の請求に対して適切に対応する。また、情報開示に係るシステムの構築を目指す。

〔現状説明〕

法人の新聞として学報(Topos)を年4回発行しており、これには適宜、年度の諸活動や計画、財務報告、事業報告等を掲載している。また、大学のweb上においては、設置する学部等、事業・財務状況、在籍者数、学則等の各種情報並びに教員の研究活動の一端ともいえる研究論文を掲載した研究紀要を紹介している発行物案内を学生、教職員をはじめとする本学構成員のみならず、広く一般にも公開している。そして、これらの情報開示に際してweb上では「問い合わせ」ボタンを設定しており、問い合わせ内容に応じて、その問い合わせ先、連絡先を明示して情報開示の請求にも対応している。

なお、教育研究活動状況に関して、研究業績一覧は各学部の研究紀要に掲載し、教員の活動状況も公開している。また、本学教員の研究業績は、インターネット上で「研究開発支援総合ダイレクトリ」に収録され、広く公開されている。なお、本学教員の科学研究費補助金採択状況は、本学の研究教育支援センターのホームページにより公開されている。

〔点検・評価〕

情報公開に際して、各種データについての解説を加え、適宜開示している。また、その開示においては、その問い合わせ先を明示して担当部署が責任をもって対応している。ホームページによる各種情報の提供によって、学内外への情報公開が適切に行われており、進んでいることは評価できる。

〔改善方策〕

学則等の情報については既に大学の web 上で閲覧が可能となっており、今後はさらに大学関係の各種情報を WEB 上で公開し、ステークホルダーに対し情報を提供することが課題となる。この際、インターネットの整備環境が不十分な人や操作等が出来ない人への配慮も必要であり、それも今後の検討課題となる。情報の公開に際し、セキュリティ面から学内専用の情報発信をしているものもあるが、今後は更なる検討を加え、ステークホルダーのみならず、広く一般の人々に対しても情報を公開するよう改善の必要がある。

また、印刷媒体とデジタル媒体ではその閲覧性が異なることから、web 公開に先立ち、想定される項目について十分な検討が必要であることはいまでもない。このため、関係部署でどのような内容、方法等で公開するか、また、一層の情報開示へのシステム構築に向け調査研究を行っている。

3. 自己点検・評価

〔達成目標〕

- 3 大学は公共機関であることを鑑み、自己点検・評価結果および外部評価結果等の情報をステークホルダー並びに社会に公開する。

〔現状説明〕

自己点検・評価の結果については、本学では 2002 年度から自己点検・評価報告書を刊行して学内、学外に向け公表し、情報提供を行っている。すなわち、学内においては全教職員に配布の他、情報メディアセンターに配架して学生等が自由に閲覧できるよう配慮している。また、学外については関係機関等に送付して公開しており、その配布先は次の通り。

1. 学外：大学基準協会、日本私立大学連盟、日本私立学校振興・共済事業団私学活性化促進センター、茨城県教育庁、茨城県教育委員会、茨城県私学連合他 10 力所
2. 学内：学校法人理事、評議員、顧問、学校法人教職員全員

この他、春、秋semester毎に「学生による授業評価アンケート」を実施して、その結果報告書を学内において公開している。大学のホームページを使用した掲載については、大学・大学院、短期大学の自己点検評価報告書、学生による授業評価アンケートはそれぞれ 373 頁(2004 年度版)、224 頁(2005 年度版)、1315 頁(2005 年度春semester下巻)とかなりのページ数であるため、サーバーの負荷や web 上での紙面構成の検討の点等から未だ行われていない。

なお、2009 年に予定している大学基準協会の認証評価に備えた学外者による検証は、組織的に実施する準備を進めている段階にあり、現在のところ大学基準協会による相互評価や学外者による外部評価を実施するに至っていない。

〔点検・評価〕

「自己点検・評価の結果をステークホルダー（教職員、学生、保護者等）並びに社会に公開する」という目標に対しては、2002 年から自己点検評価報告書を作成して学外にも公開し、情報公開を積極的に実施していることは評価に値する。また、本学では 2006 年 9 月から第 2 弾の機構改革を開始して、法人広報については企画広報課の業務分掌として更なる情報公開に向けての組織改革を始めている。今後は、web 上での情報提供等を進めるなどステークホルダーに対して印刷媒体（学報、広報誌等）のみならずデジタル媒体（web）を組み合わせた複合的な情報公開を図ることが課題となっている。

〔改善方策〕

自己点検・評価結果の公開に関しては、これまで同様、印刷媒体の報告書を作成し学内外に報告、配布する予定である。また、自己点検・評価報告書の内容については、情報公開の点からもホームページから検索、閲覧ができるよう計画を進めている。そして、2009 年に予定している認証評価に備えての準備を全学をあげて進めている。